

報告事項 1

令和 2 年度 事業報告・収支決算

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日



令和 3 年 5 月 29 日 (土)

N P O 法人 川に学ぶ体験活動協議会

1. 総括

令和2年度は全世界的にコロナ禍の猛威で会員団体にも多大な影響が出た。RAC 本部の活動でも多くの事業が中止あるいは本来の活動ができなくなってしまった。そんな中でも7月上旬に新たにシャワークライミング講座が開催され、たくさんの参加者があった。

コロナ禍の下での講座開催の手段として動画活用をすべく講座用動画の整備を図ったが、動画記録を目的とした屋外の講座が開催できなかったため使用機材を中心とした撮影を行った。

次年度以降は屋外での講座の動画の整備を進めるとともに、動画を活用した様々な講座が開催することが望まれる。また、昨年度は中止になった RAC フォーラムが、内容を少し変更して初めての WEB の方式での RAC フォーラムとして開催された。



写真 1. RAC シャワークライミング講座

(1) 会員の入会状況

種別 会員区分	団 体		個 人	
	R1	R2	R1	R2
正会員	7 5	7 1	1	2
一般会員	3 0	3 1	1	2
賛助会員			1	0
計	1 0 5	1 0 2	3	4

(3月31日現在)

2. 会議

- (1) 理事会 — 令和元年度の活動報告・会計報告、令和2年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時] 令和2年6月12日(金) 13:30~14:30 /WEB会議

- (2) 総会 — 令和元年度の活動報告・会計報告、令和2年度の活動計画、収支予算等についての報告及び役員を選任を議決した。

[開催日時] 令和2年6月12日(金) 15:00~17:00 /WEB会議

- (3) 常任理事会 — 業務執行に関する検討や講座及び資格の認定審査を行った他、下記の日程で業務進捗状況、財政状況の確認等を行った。

[実施日] 第1回 令和2年5月13日
 第2回 " 7月20日
 第3回 " 8月24日

- 第4回 " 9月 29日
- 第5回 " 11月 12日
- 第6回 " 12月 16日
- 第7回 令和3年 2月 16日

[場 所] ZOOM会議

(4) 専門部会・委員会

下記の専門部会ごとに事業活動を推進した。

① 企画総務部会

- ・全国大会 in 小川原湖は、新型コロナの影響で来年に延期にすることになった。実行委員会3回と現地調査を実施した。
- ・RAC フォーラムをWEBで開催した。2名の講師が講演と質疑応答を行った。
- ・20周年記念事業の冊子作成は、委員会を立ち上げ、内容の検討から執筆依頼、編集、デザイン等を行った。
- ・新事業の調査検討業務は、川の工事業者及びイベント主催者に安全対策などについてのWEB講座を2回開催した。
- ・川育ライフジャケット認定制度の普及と機材レンタルを行った。
- ・ホームページ更新、メールマガジンの発行と、FACEBOOK を活用した情報発信を行った。

② 人材育成部会

- ・7月に新しい資格制度「シャワークライミングガイド」のマスター講師、専任講師、シャワークライミングガイド養成会を岐阜県高山市荘川町で開催した。コロナ禍でもあり密に配慮しての開催であったが、全国から40名を越える参加があり、マスター講師、専任講師（仮登録を含む）、シャワークライミングガイドを認定した。リモートでの講師参加もあり新しい形の講座を行うことができた。
- ・通常スタイルで講座開催やプログラムが実施できにくい中、工夫して講座実施している事例もあったが、開催数は少なくなった。
リモートで行うための映像制作も一部行われたが、会員の方に利用いただけるように整備された状態ではない。次年度の課題としたい。

③ 学校連携部会

- ・学校連携部会議開催を計画したが、調整不足で開催には至らなかった。
- ・学校リーダーの育成はコロナ禍のため開催できなかった。
- ・見附市での防災キャンプに参加し助言する予定であったが、予定の防災キャンプの開催が見送られた。

③ 組織強化部会

- ・コロナ禍で対外的な動きが難しかったが、広報・営業ツールのひとつとして、各地での事業モ

デルを集めた「事例集」の作成を検討した。

- ・全国大会やフォーラムを会員向け行事から、より外部向け、地域や顧客向けとすることによって、川の体験活動やRACのことをより広く知ってもらえるようにする方策について検討した。

(5) 専門委員会

① 審査認定委員会

- ・講座開催審査や支援条件整理、指導者修了確認・認定等を行った。

② 安全対策委員会

- ・水辺体験活動での事故等の発生防止に向けて講座等の実施体制等を検証した。

3. 川の指導者養成等

本年はコロナ禍の中でも RAC リーダー講座 8 講座、RAC アシスタントリーダー養成講座 6 講座が開催された。全体的に指導者養成講座もコロナ禍のために減少したが、コロナ禍のために夏場にプールや海の家などがなくなり川で遊ぶことが増えることを見越して、全国の川の楽しさや身の守り方を伝えるため川の指導者数を増やすことが課題であり、そのテコ入れは急務である



写真 2. 「アシスタントリーダー講座（埼玉県荒川）」

【各種講座開催及び修了状況】

種別 年度	RAC アシスタントリーダー(基礎講座)		RAC 学校 リーダー※1		リーダー		インストラクター(I)		コーディネーター (インストラクター II)		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13	(12)	(966)			5	52						
H14	(3)	(83)			15	528	5	126			暫定	24
H15	(4)	(10)			24	446	3	52			1	17
H16	(1)	(14)			26	387	3	32			2	16
H17	(0)	(0)			27	266	3	25	0		1	14
H18	(2)	(49)			27	207	3	22	1	4	1	9
H19	(6)	(141)			25	376	0	0	0	0	0	0
H20	(3)	(38)			26	319	2	0	0	0	0	0
H21	(4)	(22)			33	334	4	48	0	0	0	0
H22	(1)	(12)			35	338	2	22	2	6	1	6
H23	(0)	(0)			33	287	5	43	0	0	1	4
H24	(3)	(26)			26	234	3	12	1	7	1	4
H25	1	7			18	168	0	0	0	0	1	1
H26	2	25	3	25	14	131			2	10	1	2
H27	5	85	1	10	16	124					1	6
H28	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2	6	26	1	11	8	62	0	0	0	0	0	0
計	93	1793	6	48	412	4710	34	384	6	27	13	113

※1 RAC アシスタントリーダーは H25 までは基礎講座の講座数及び修了者

(1) RAC 指導者講座の開催

コロナ禍でも各指導者養成団体で必要とされる川の指導者の養成講座を、全国各地の河川において展開した。RAC リーダー養成講座については全国各地で8回開催した。また、アシスタントリーダーについては6回開催した。RAC トレーナー更新講習会については初めての試みとして WEB 講習会で令和2年6月、令和3年3月に2回開催した。



写真3.「リーダー講座(岩手県肝沢川)」

(2) 付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

令和2年度は新型コロナ感染のため、水辺のレスキュー1講座、Eボート指導者1講座、水辺のファーストエイド1講座と、各地域での開催が少なくなりました。

【付加資格講座開催一覧】

種別	水辺のリスク マネジメント講座		水辺のリスク マネジメント 専任講師養成		水辺のレスキュー 講習		水辺のレスキュー 専任講師養成		Eボート指導者		Eボート指導者 専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20	10	180	4	67								
H21	6	64			3	18	5	24	3	36	4	27
H22	2	28			3	16			3	26		
H23	4	51			8	77	1	3	6	68	1	3
H24	3	31			5	29			9	90	3	9
H25	4	42	—	—	5	41	—	—	11	115	2	10
H26	4	18			2	27	0	0	8	71		
H27	2	11			1	12			14	84		
H28	3	21			1	16	2		6	38		
H29	1	21			2	31	3	16	5	41		
H30	2	19			1	11	0	0	4	23		
R1	1	6			3	23			3	16		
R2					1	11			1	6		
計	41	492	4	67	36	312	11	43	73	614	10	49

種別	水辺のファースト エイド講習		水辺のファースト エイド講習 専任講師養成		RAC 水辺の生き 物講習会		学校連携コーディネーター養成講座					
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	(基礎課程)		(応用課程)		(専修課程)	
年度	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20												
H21												
H22												
H23												
H24	1	15	1	(11)								
H25	4	42	—	—	1	3	1	16	1	9		
H26	3		1		0	0	3	34	0	0		
H27	1	20					1	10	1	3		
H28							1	7			1	3

H29					1	2	1	4				
H30	0	0	0	0	0	0	1	5				
R1							1	5				
R2	1	8										
計	11	85	1	(11)	2	5	9	78	2	※12	1	3

※修了実習待ち含む。

(3) RAC シャワークライミング講座開催について

シャワークライミングは川のアクティビティとして各地で行われ人気があるが、一方で、安全確保策の徹底が急がれる活動である。そこで、RACとして初めて新たな講座の構築に向けての講座を実施した。

コロナ禍の合間の7月4日～6日に岐阜県の荘川町周辺で実施し、約40名の参加者があった。合わせてRACアシスタントリーダーの講座も併催し、RACについての広報も行った。「RACシャワークライミング講座」としての資料の作成も行っているので、令和3年度からは全国各地域でRACシャワークライミング講座を開催できるようになった。



写真4. 「荘川現場実習」



写真5. 「荘川現場実習」

4. 全国大会等

(1) 第20回川に学ぶ体験活動全国大会 in 小川原湖

① 第1回実行委員会 令和2年9月9日 16:00～(WEB会議)

令和2年度の全国大会は正式に次年度へ延期となった。分科会では「食」と中心として行うことや、エクスカージョン、会場の確認などについても確認を行った。コロナ禍で地域での協力者も少ないことから、大きな大会ではなくアットホームな全国大会にしようという意見があった。

② 現地調査 令和2年9月20日～22日 青森県三沢市付近

実行委員の有志が集まり、実際にエクスカージョンを想定して下見を行った。現時点でのプログラムでは開催が無理なこともあり、大幅に変更することになった。Eボートについては高瀬川を上のをやめて、小川原湖での体験活動とすることになった。また、仏ヶ浦などのカヌーについてもとても初心者には危険なこともあり、漁船での見学などに変更することも検討することとした。会場についても根井小学校での開催を検討することとした。



写真6.「根井沼探検下見」



写真7.「高瀬川下見出発地点」

③ 第2回実行委員会 令和2年11月20日(金) 13:30～14:30

エクスカージョンの修正を行った。Eボートや仏ヶ浦のエクスカージョンについては漁師の方が1人ついて全国大会の前日に行く事を決定した。コロナ禍を鑑みてWEBでの参加も検討をする。会場は課題もあるが根井小学校に決定した。いつまでにどんなことをすればよいのかスケジュール表の作成を行うこととした。

④ 第3回実行委員会 令和3年3月10日(水) 13:30～14:30

次年度開催する方向を決定した。人数制限を設け、PCR検査についても話ができた。一部はWEBでの参加も出来るように考えている。基調講演、パネルディスカッションについては開催を考えている。ネット配信なども視野に入れている。開催決定については5月のゴールデンウィークのころに決めたい。体験のエクスカージョンは開催したいと考えている。東北からの参加者は少ないと考えている。

(2) RACフォーラム等の開催

- 日 時：令和3年3月6日 13:00～15:45
- WEBで開催

・講演として質疑応答を交えながら2名の講師が行った。

- ①早川 修（早川総合法律事務所）
演題：コロナ禍におけるリスクマネジメント
- ②岩本 唯史（ミズベリングプロジェクトディレクター）
演題：新しい水辺の創造と連携

約40名の参加があった。初めての試みであったが、スムーズに運営ができたと感じている。これを機会にWEBでの開催を企画することが出来ると確信している。



5. 調査検討事業

(1) 調査検討業務

①河川事務所からの受託事業

今年度はコロナの流行で河川事務所からの事業は1事業のみであった。信濃川下流河川事務所よりの受託業務であり、WEB講座で川の工事業者及びイベント主催者に向けての安全対策などについての講座を2回行った。1月12日に工事業者及び河川管理者を対象に、1月14日にイベント主催者を対象に行った。WEBで東京と各会場（信濃川下流河川事務所、長岡市役所など）を接続してパワーポイントなどを使って、川の危険箇所や下見の重要性、また、事故事例などについての説明を行った。

2回の講座で総勢、40名の方が受講した。コロナ禍を見据えての今後のWEB講座についてのアンケートも行った。座学についてはWEB講座でも充分であるが、実習をする機会があれば参加したいという意見もあった。



写真9. リスクマネジメント講座(1月12日)



写真10. リスクマネジメント講座(1月14日)

②公益財団法人からの受託事業等

河川財団からの河川基金及び受託事業で、指導者講座開催時の助成を受けるとともに、受講者から「ひやりはっ」と情報を収集するとともに講座時に使える動画の検討及び作成を行った。本年の支援講座については3団体であった。動画については、活動時に使う機材の動画（14分版）を作成した。

今後、機材版に引き続き、講座で使える動画を科目ごとに撮影していくこととしている。



写真 11. 川での装備についての説明



写真 12. 川で活動時の履物

(2) 川育関連事業

今年はコロナ禍で見附市の防災キャンプは開催されなかった。

6. 広報・普及活動

(1) 川育ライフジャケット認定制度の普及

我が国には「川遊び用のライフジャケットとして推奨できる安全基準」や「試験・認定制度」が存在していなかったが、RACでは平成26年度に「川という自然環境下での体験活動に適した安全基準として、「RAC 川育ライフジャケット認定ガイドライン」を関係各機関の協力のもと策定し、ライフジャケットの製品認定と安全な製品の普及体制を構築した。令和3年3月現在、6種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。

令和2年10月には、ライフセービング協会、B&G財団、一般社団法人水難学会とともに水難事故防止に向けての事故防止安全会議をZOOM会議で開催した。

(2) 広報活動

- ・メールマガジン「RAC-NEWS」を3回発行した。また、Facebookなども活用して情報発信を行った。
- ・RACホームページを随時更新した。

(3) 川の指導者の道具

より安全な水辺の体験活動を普及するために、川育ライフジャケット認定ガイドラインに沿って、川遊びに特化して開発したライフジャケットの普及を行った。また、昨年からは開始したグラブナー社のEボートの販売（仕様、価格はRACホームページに掲載）も継続している。また、水害発生時にはEボートを提供できるようにした。

レンタル業務では、レンタルの拠点は、従来は小貝川生き生きクラブ（管理：公財ハーモニセンター）のみであったが、拠点を九州のリバーパーク鯉の学校（管理：NPO法人みずのとらベル隊）や北海道のまち・川サポートセンター、また、岩手県のいわて流域ネットワークへ分散することによって、使う方々がレンタルしやすいように改善し、各地の安全な活動へ貢献した。

なお、レンタル機材の保有数及び、当年度のレンタル状況については下記の通りである。

【RAC 機材一覧】

No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット（幼児用）	30	着	
2	ライフジャケット（低学年用）	132	着	今年度 50 着購入
3	ライフジャケット（子ども用）	543	着	
4	ライフジャケット（大人用）	202	着	
5	ライフジャケット（プロ用）	14	着	
6	ヘルメット（子ども用）	95	個	
7	ヘルメット（大人用）	132	個	
8	スローロープ（15m）	12	本	
9	スローロープ（20m）	23	本	
10	Eボート	11	艇	グラブナー社 G タイプ
11	ポンプ	16	個	
12	パドル	110	本	一部スチール
13	ウェットスーツ	70	着	

グラブナー社 Eボート



定員 10名程度（最大積載重量 約0.9t）
 サイズ 縦 6.5m 横 1.4m
 （収納サイズ 約1m×0.6m×0.4m）
 重量 約60kg カラー 黒×赤
 部品構成 本体（3気室）+シート6コ（各1気室）
 主要素材 ゴム製のインフレータータイプ
 （ハイパロン+トレビラ繊維+ブチルゴムの3層構造）

【R2 レンタル状況】

PFD	ヘルメット	スローバック	E ボート
382	119	52	3

※自主事業利用含

7. その他

(1) 佐原リバーレンジャー活動

河川協力団体としての自主事業として、令和2年7月～11月に千葉県佐原市の水の郷さわらを中心に子どもたちを対象に河川リバーレンジャーの活動を行った。「水の郷さわら」についてはPFI事業で行政と民間が一緒に施設運営など行っている施設である。今回は合計3回のコースで、1回目はEボートたぬき島探検、2回目は利根川下流域の水防災についての勉強、3回目は横利根閘門をEボートで通船する活動を行った。主に親子での参加で約30名が参加した。次年度に向けてのモデル的な事業をすることができた。令和3年度についても更なる川の指導者育成などへの広がりを見込んでいる。

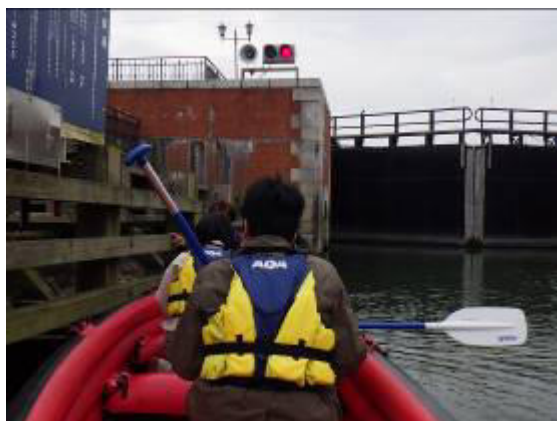


写真 13. 横利根閘門の通船体験



写真 14. 佐原リバーレンジャー受付風景

(2) 江東区 E ボート乗船体験

ミズベリングは、もともとは国土交通省河川環境課が提唱して川を生かしたまちづくりや地域活性化をめざしているプロジェクトである。今回は江東区の汐浜運河におけるミズベリングの水辺の大実験にRACとして参画した。企業がかかわり、水辺の使い方などについての実験が行われた。コロナ感染については十分に予防について対処をしながら、Eボート乗船体験を行った。60名近い人たちが参加した。その他、SUP体験会や釣りなどについて活動も行われた。キッチンカーなども設置されて、日常的に川を楽しめる場になった。今後の展開が期待できる。



写真 15. 江東区 E ボート体験 (操船)



写真 16. 江東区 E ボート体験 (乗船)

(3) 事故調査など

本年度はプールや海の家がなかった分、河川での事故が多発した。本年は、栃木県の下野新聞からの依頼を受けて、事故が発生した「おしらじの滝」において下野新聞社の記者とともに事故検証を行った。なお、矢板市からは入林届など許可をもらって調査を行った。

時期的には水量は多くなく、水については流れ出てはいなかったが、水温はとても冷たかった。水温が低くてパニックになった為の事故ではないかと推測された。新聞でも事項調査の様子が掲載された。

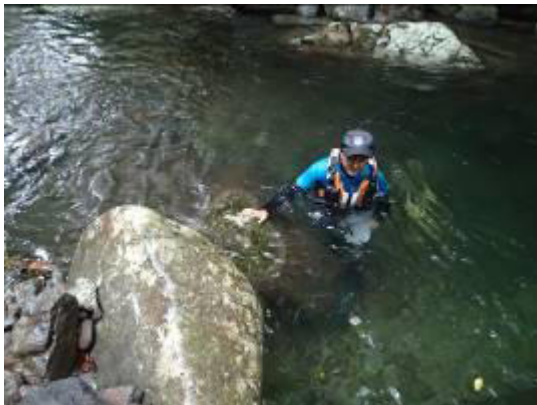


写真 17. おしらじの滝事故調査風景



写真 18. 下野新聞 9 月 4 日掲載記事

(4) 河川協力団体

・荒川下流事務所・利根川下流事務所の河川協力団体関連事業として、荒川（旧中川）では E ボートクルーズの運行、また、利根川下流域（小見川）では佐原での E ボートレースの安全講習や運営協力を行った。

(5) 球磨川水害について

令和 2 年 7 月 3 日から 4 日にかけての熊本県八代市の球磨川流域における豪雨の影響で、球磨川が大規模に氾濫して多くの被害がでた。球磨川においては、RAC は数年前から八代河川国道事務所からの業務委託で流域の小学校を中心に子どもたちの川体験の活動を行っていた。

発災直後から、RAC 支援隊としてたくさんの募金などが集まり、現地にもたくさんの支援物資を送ることができた。また、現地で RAC の指導者たちは支援活動を行った。今回はコロナもあり、外部の人がボランティアをして入れない状況下で、現地の RAC 指導者たちの支援活動は大きな役割を果たしたものとする。

なお、この球磨川水害の募金活動を機会に、「災害時の RAC 支援金規程」を策定し、会計上も特別会計として災害支援を行える仕組みを構築した。



写真 19.汚れた床の上で寝ていたので助かりました。



写真 20. 見附市からの支援物資

2020年度RAC講座一覧

□ RACアシスタントリーダー講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-AL-01	NPO法人どんころ野外学校	吉元美穂	頓別川	NPO法人 モモンガくらぶ・登別市ネイチャーセンター 「ふおれすと鉱山」	4	
2020-AL-02	NPO法人どんころ野外学校	野々山裕子	石狩川	旭川公園緑地協会 別棟	1	
2020-AL-03	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	大井里美	庄川	OD-ファーム荘川	13	
2020-AL-04	NPO法人エヌエスネット	北川健司	祝川	紀北町町民センター	17	
2020-AI-05	NPO法人帯広NPO28サポートセンター	千葉利光	札内川	エールセンター十勝	0	報告待ち
2020-AL-06	NPO法人ダウン・ザ・テッシー	大内雅司	釧路川	川湯エコミュージアムセンター	8	
					43	

□ RACリーダー養成講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-B-01	栃木カヤックセンター	佐々木慎一	那珂川・武茂川	栃木県立馬頭高等学校	0	報告待ち
2020-B-02	カワラバン	菅原正徳	名取川水系広瀬川	ろりぼっぐ学園(各園とオンライン)	11	
2020-B-03	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	内村 政彦	紫川水系紫川	かぐめよし少年自然の家	6	
2020-B-04	NPO法人芦生自然学校	岡 佑平	由良川	芦生自然学校キャンプ場	11	
2020-B-05	くりこま高原自然学校	塚原俊也	鶴住居川	三陸ひとつなぎ自然学校	11	
2020-B-06	一般社団法人いわて流域ネットワーク	菊池 拓巳	胆沢川	奥州湖交流館	6	
2020-B-07	仁淀川清流保全推進協議会	遠近 知代	仁淀川	土佐合同庁舎2階大会議室	3	
2020-B-08	公益財団法人 河川財団・近畿事務所	瀬戸口 泰子	淀川水系淀川	淀川管内河川レンジャー 中央流域センター	7	
					55	

□ Eポート指導者養成講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-E-01	利根川の魅力を育む会	田島洋輔	鬼怒川	栃木カヤックセンター	0	延期
2020-E-02	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	内村 政彦	紫川水系紫川	北九州市立水環境館	6	

2020年度RAC講座一覧

					6	
--	--	--	--	--	---	--

□ RACファーストエイド講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-FA-01	NPO法人ダウン・ザ・テッシー	大内 雅司	釧路川	川湯エコミュージアムセンター	8	
					8	

□ RAC子どもの水辺安全講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-L-01	一般社団法人地球の楽校	長谷川孝一	①二階堂川、②相模川	①沖の家、②寒川市寒川スポーツ公園	0	報告待ち
					0	

□ RACレスキュー講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-Q-01	玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体	砂田 絵里	遠賀川水系頓田貯水池	北九州市立玄海青年の家	11	
					11	

□ RACトレーナー更新講習会

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-R-01	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	大井 里美		各自宅など	11	
2020-R-02	NPO法人川に学ぶ体験活動協議会	大井 里美		NPO法人川に学ぶ体験活動協議会事務所	6	

□ 学校リーダー講座

講座認定番号	主催団体	実施担当者	実施河川	実施場所	登録人数	備考
2020-SL-01	NPO法人芦生自然学校	岡 佑平	由良川	芦生自然学校キャンプ場	11	

令和2年度 活動計算書(案)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位:円)

科 目	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	増 減 (B)-(A)	備 考
I 経常収益				
1 受取会費等	1,600,000	2,130,530	530,530	
①受取会費	1,500,000	2,130,530	630,530	災害救助支援金含
②受取寄付金	100,000	0	△ 100,000	
2 講習会等事業収益	1,400,000	1,487,404	87,404	
①登録手数料・講習テキスト関連	1,000,000	950,482	△ 49,518	
②講習会受講料	100,000	85,144	△ 14,856	
③川に学ぶ全国大会	0	0	0	
④講師派遣	300,000	451,778	151,778	
3 調査研究事業収益	18,000,000	6,732,900	△ 11,267,100	
①調査研究業務	3,000,000	663,300	△ 2,336,700	
②指導者養成等講座運営	15,000,000	6,069,600	△ 8,930,400	
③防災スクール関連事業	0	0	0	
4 助成事業収益	1,900,000	945,000	△ 955,000	
①河川基金関連	1,500,000	840,000	△ 660,000	
②その他関連	400,000	105,000	△ 295,000	文科省助成事業
5 グッズ等著作事業収益	3,340,000	4,173,353	833,353	
①グッズ販売	2,640,000	3,693,211	1,053,211	
②グッズレンタル	500,000	463,142	△ 36,858	
③川育認定	100,000	0	△ 100,000	
④資機材点検	100,000	17,000	△ 83,000	
⑤日本水大賞 他	0	0	0	
経常収益計	26,240,000	15,469,187	△ 10,770,813	
II 経常費用			0	
1 指導者養成関連事業費	16,860,000	5,967,827	△ 10,892,173	
1)講習会事業費	700,000	687,109	△ 12,891	
①登録関連・講習テキスト関連費	100,000	91,817	△ 8,183	
②講習会関連費	100,000	142,012	42,012	
③RAC・OJT事業関連費等	0	28,891	28,891	
④川に学ぶ全国大会関連費	300,000	95,525	△ 204,475	
⑤講師派遣関連費	200,000	328,864	128,864	
2)自主事業費	1,060,000	1,646,613	586,613	
①広報宣伝費	30,000	130,770	100,770	
②「水辺のひやりはっと」検証・普及啓発費	10,000	0	△ 10,000	
③「川育」プロジェクト関連費	10,000	0	△ 10,000	
④防災教育プログラム収集・発信関連費	10,000	0	△ 10,000	
⑤川の流れ体験キャンペーン	0	0	0	
⑥日本水大賞関連費	1,000,000	1,027,645	27,645	
⑦RAC災害救助支援活動費	0	488,198	488,198	
3)調査研究事業費	15,100,000	3,634,105	△ 11,465,895	
①調査研究業務費	1,600,000	499,030	1,535,075	
②指導者養成等講座運営事業費	13,500,000	3,135,075	△ 13,000,970	
③防災スクール関連事業費	0	0	0	
2 助成関連支出	1,900,000	1,426,637	△ 473,363	
①河川基金関連	1,500,000	1,377,907	△ 122,093	
②その他関連事業	400,000	48,730	△ 351,270	
3 グッズ等著作製作・管理費	2,770,000	3,628,955	858,955	
①グッズ販売関連費	2,500,000	3,003,513	503,513	
②グッズレンタル関連費	200,000	543,672	343,672	
③川育認定関連費	20,000	0	△ 20,000	
④資機材点検費	50,000	81,770	31,770	
4 管理費	4,650,000	4,966,903	316,903	
①人件費	2,300,000	2,174,704	△ 125,296	
②賃貸料	950,000	921,600	△ 28,400	
③管理諸費	1,000,000	1,438,299	438,299	
④消費税等	300,000	432,300	132,300	
⑤貸倒引当金	0	0	0	
⑥雑費	100,000	0	△ 100,000	
経常費用計	26,180,000	15,990,322	△ 10,189,678	
当期経常増減額	60,000	△ 521,135	△ 581,135	
III 経常外収益			0	
受取利息	1,000	101		
雑収益	0	3,009,190		
貸倒引当金戻入	0	0	0	

	經常外収益計	0	3,009,291	3,009,291
IV	經常外費用			0
	退職給付費用	100,000	60,000	△ 40,000
	雑損失		184,084	
	經常外費用計	100,000	244,084	144,084
	税引前当期正味財産増減額	△ 40,000	2,244,072	2,284,072
	法人税、住民税及び事業税	70,000	195,300	125,300
	当期収支計	△ 110,000	2,048,772	2,158,772
	前期繰越正味財産額	14,676,303	14,676,303	0
	次期繰越正味財産額	14,566,303	16,725,075	2,158,772

貸借対照表

令和3年3月31日 現在
 特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会
 (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	10,905,784	8,422,025	2,483,759
仮払	50,000	51,499	△ 1,499
棚卸	2,890,907	4,228,155	△ 1,337,248
前払	120,000	124,168	△ 4,168
未収	5,928,144	5,885,600	42,544
立替	0	104,406	△ 104,406
	0	0	0
流動資産計	19,894,835	18,815,853	1,078,982
2 固定資産			
特定資産			
調査研究基金預金	2,000,743	2,000,726	17
退職給与引当預金	1,245,549	1,305,537	△ 59,988
特定資産計	3,246,292	3,306,263	△ 59,971
その他の資産			
什器備品	5	5	0
敷金	0	0	0
その他の資産計	5	5	0
固定資産計	3,246,297	3,306,268	△ 59,971
資産合計	23,141,132	22,122,121	1,019,011
II 負債の部			
1 流動負債			
未払法人税	3,489,751	3,365,084	124,667
未払消費税	195,300	70,000	125,300
未払消費	110,300	536,000	△ 425,700
預り受入金	570,706	686,234	△ 115,528
借入金	0	0	0
前受入金	550,000	720,000	△ 170,000
未成事業受入	0	0	0
流動負債合計	4,916,057	5,377,318	△ 461,261
2 固定負債			
退職給与引当金	1,500,000	1,500,000	0
固定負債合計	1,500,000	1,500,000	0
負債合計	6,416,057	6,877,318	△ 461,261
III 正味財産の部			
一般正味財産	16,725,075	15,244,803	1,480,272
負債及び正味財産合計	23,141,132	22,122,121	1,019,011

財 産 目 録

令和3年3月31日 現在
 特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会
 (単位 : 円)

貸借対照表科目	場所・数量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金・預金 小口現金 普通預金 未収入金 棚卸商品 前払費用 仮払金	手元保管 楽天銀行 ゆうちょ銀行(当座預金) ジャパンネット銀行 ジャパンネット銀行 三菱東京UFJ銀行新富町支店① 三菱東京UFJ銀行新富町支店③ ゆうちょ銀行(普通預金) 住信SBI銀行 河川財団/指導者養成支援及びひやりはっと収集業務 河川財団/河川環境教育推進アンケート業務 文科省/自然体験活動推進事業 構成団体/令和2年度年会費 BASE/RACフォーラム参加費等売上分 令和元年度年会費等	支払口座として 年会費口 ネットショップ入金管理用 指導者登録料等入金管理用 (利用休止中) (利用休止中) 支払口座として 現金・預金計 未収金計 前払家賃	324,152
			3,742,322
			425,970
			2,227,711
			2,169,262
			35,662
			900
			1,979,039
			766
			10,905,784
			3,520,000
			1,980,000
			105,000
			200,000
			33,144
90,000			
5,928,144			
2,890,907			
120,000			
50,000			
流動資産計			19,894,835
(固定資産)			
特定資産	調査研究基金預金	普通預金 (三菱東京UFJ銀行新富町支店)	調査研究資金として 2,000,743
	退職給与引当預金	普通預金 (三菱東京UFJ銀行新富町支店)	職員の退職給付金として 1,245,549
			特定資産計 3,246,292
その他の資産	什器備品 敷金		5 0 5 その他の資産計
固定資産計			3,246,297
資産合計			23,141,132
(流動負債)			
未払金 未払法人税等 未払消費税 預り金 借受金 前受金	㈱クリアウォーターカヤックス/グッズ仕入代金(437-444) 河川財団/令和2年度河川基金 返金分 RAC事務局スタッフ/令和3年3月分給与 フォービー/20周年記念冊子 編集印刷(1500部)費 早川弁護士/顧問料(R02) WDTK/令和2年度下半期事務局運営費	未払金計 源泉所得税	523,116
			440,000
			396,635
			1,000,000
			330,000
			800,000
			3,489,751
			195,300
			110,300
			570,706
0			
550,000			
流動負債計			4,916,057
(固定負債)			
	退職給与引当預金	職員の退職給与の引当として	1,500,000
固定負債合計			1,500,000
負債合計			6,416,057
差引正味財産			16,725,075

特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会
代表理事 久住時男 殿

令和2年度 監査報告書

令和2年4月1日より令和3年3月31日までの会計事業年度における特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会の計算書（財産目録・貸借対照表・収支計算書及びこの計算書作成の過程で作成される、仕訳帳・勘定元帳並びにそれらの根拠たる証憑類）を監査した結果、いずれも特定非営利活動促進法第5条及び第27条に則りまた公益会計基準に準拠して適切に処理され作成されていると認めます。

また、業務の執行についても適切に行われていると認めます。

以上

令和3年 5月25日

監事

吉野 英夫



田村 祐司

